

HPでも!

このコーナーは、サッカーマガジンのホームページでも読むことができます。
当時の目次や、そのほかの過去のサッカーマガジンの目次も調べられます。
アクセス⇒<http://soccer.hikaritv-bbm.com/>

2010年ワールドカップ特別連載

在南ア日本大使館
領事がつつる

南アフリカ通信

Vol. 16

文・写真◎新保 剛



2010年のワールドカップ開幕まで、あと226日。
開催国の南アのことをよく知らない人も多いだろう。
現地在住の日本大使館領事から届くこのコラムで
生の南アフリカを見て、知って、本大会に備えよう!

●「強盗には遭遇するものと思って行動を」●



▲ブレトリアの丘に立つ電話会
社の電波塔。サッカーボールの
飾りがW杯ムードを盛り上げる

気がついたときには遅かった」
ある在留邦人の自宅前でのこと。
昼過ぎ、外出先から帰宅したところ、後ろから来た高級車も止まった。出てきたのはスーツを着込んだビジネスマン風の男。拳銃を突き付けられ、こう言われた。「金を出せ」。言われた方は固まった。「なぜ私服刑事がこんなことを言うのだろう。だが、一瞬のうちに恐怖が襲った。この人は刑事ではない、強盗だ。」
強盗の身なりが良かったこともあり、拳銃を見て、被害者がまず連想したのは私服刑事だったのだ。幸い、すぐに勘違いに気づき、強盗の言いなりに財布と携帯電話を渡した。幼い子供を連れていたのだが、誰も危害を加えられなかった。
別の在留邦人は、会社帰りにファーストフード店に立ち寄った。夕方6時。店内に入ってから様子がおかしいことに気がついた。客が床に伏せている。それから、自身に銃口が向けられていることに

気がついた。強盗団が襲撃中の店に入ってしまったのだ。抵抗すれば撃たれる。慌てて伏せた。強盗は売上金だけでなく、客の財布も奪って逃けた。
この二件は筆者が直に被害者から聞いたものだが、共通しているのは、拳銃強盗に遭遇したら、逃げられないということだ。抵抗すれば命が危ない。強盗に遭遇しない方が良いに決まっているが、周囲を常に警戒しても限度がある。ならば、遭遇するものという前提で、対策を立てるしかない。
多額の現金を携帯せず、財布は分ける。クレジットカードや国際キャッシュカードが複数枚あるなら、一枚はホテルの金庫にしまっておく。強盗に遭ったら無一文、という事態は避けたい。携帯電話のデータはバックアップをとっておく。強盗は電話機が目当てだが、大事な電話番号のデータは戻ってこない。
気がついたときには手遅れの話をも一つ。紫外線である。南アの内陸部は高地で乾燥しているため紫外線が強い。冬でも晴天下で直射日光を浴びれば、1時間で日本の夏と同じ位に日焼けする。顔だけ日焼けすると、それから数日間、微熱があるような感じが続き、結構苦しむことになる。紫外線は帽子と日焼け止めがあれば十分に防げるし、現地購入も可能だから、南ア滞在中は心がけてほしい。

著者プロフィール●一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップに向け、日本人旅行者に安全情報を発信する

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp> 在南アフリカ日本国大使館 http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html